

「地域課題を考える住民懇談会」開催結果概要【留辺蘂自治区】

開催日：平成19年11月19日(月)、平成19年11月20日(火) 全2回開催

会場：留辺蘂町中央公民館、温根湯温泉公民館

参加者：102名 【内訳】 ・市民 70名

町内会関係43名 民生委員14名

福祉施設関係6名 教育関係4名

その他3名

・委員 5名(延べ)

・事務局 27名(延べ)

実施形態：行政説明後、座談会形式で意見交換

地域活動全般について	2
各団体間での連携・協力体制の不足(6件)	2
役員等のなり手、担い手不足(3件)	2
人と人とのつながりの希薄化(5件)	2
個人情報保護法、プライバシーの問題(6件)	2
参加者の減少・固定化(9件)	3
その他(11件)	3
新しい住民自治組織	4
「新しい住民自治組織」全般に関するご意見(12件)	4
福祉関係	4
地域福祉活動に関するご意見(26件)	4
福祉サービスに関するご意見(15件)	6
災害・防災関係	7
緊急時における情報提供について(5件)	7
避難所・避難訓練について(5件)	7
地域における活動、自主防災組織について(20件)	7
行政の体制について(7件)	8
その他	8
その他のご意見(4件)	8

地域活動全般について

各団体間での連携・協力体制の不足（7件）

- ・ 自治会として目立った活動はしていないが、小学校を中心に活動しており、過疎でも地域力が高く、まとまりのある地域だと自負している。【2件】
- ・ 民生委員の活動をしていて、今までは学校の敷居が高かったが、2年前から学校訪問をしており、連携を取りつつある。
- ・ 他の自治会と連携してお祭りをやろうという話が出たことはあるが、参加者、担い手が少ないなら少ないなりにやっていけるので、連携にまで結びつかない。
- ・ 自治会のそれぞれの部会が子ども会や高齢者クラブなどと連携している。
- ・ 夏祭り、運動会、パークゴルフ、ミニバレーなど近隣自治会と連携して実施している。
- ・ 3つの自治会、子ども会、老人クラブなどが共同で、10年以上夏祭りをやっている。

役員等のなり手、担い手不足（3件）

- ・ 役員のみなり手不足で悩んでいる。若者は仕事で忙しく、年金の支給延長など働かざるを得ない状況がある。
- ・ 自治会を動かしていくには、もうすぐ退職される50代～60代の人材を育てていくことが必要。
- ・ 自治会を動かしていくには、若い人の力が必要である。若い人に協力を願うシステムづくりが必要。

人と人とのつながりの希薄化（5件）

- ・ 孤独死を防ぐためにも、向こう三軒両隣の間関係を築く（維持する）ことが本当に大切。
- ・ 自治会は、昔ながらの助け合いがあり、隣同士が助け合う環境がまだ築かれている。
- ・ 自治会での花見などを通じて、どういう人がいるかということを知るようにしている。
- ・ 日頃、隣近所とカーテンの空け閉めをサインと決めて安否確認を行っている。こうした単純で小さな情報交換からでも向こう三軒両隣の間関係で支えあうことは可能だ。
- ・ この地区で葬式があったときは、自治会で手伝いを出しながら、公民館かお寺でやることが多い。そういった意味でも地域のつながりがある。

個人情報保護法、プライバシーの問題（6件）

- ・ 自治会での福祉マップづくりをはじめ、民生委員と連携して取り組みたい福祉活動が他にもあるが、個人情報保護法がカベになり停滞している。

- ・ 倒木の危険性や防犯上の観点から、空き家の草刈を自治会でやりたいと思っているが、個人情報の関係で所有者が分からない。
- ・ 個人情報保護のせいで、新しく来た人の家族構成など全然分からない場合がある。
- ・ 個人情報の問題で、自治会長が地域の情報を持っていない状況にある。
- ・ 自分の担当地域(民生委員)が広いので、地域でも独居高齢者を支えてくれているが、地域も個人のことなのであまり深入りできない。
- ・ 個人情報の取扱いに苦慮している。

参加者の減少・固定化(10件)

- ・ 自治会の夏祭りがマンネリ化し、参加者の減少(特に高齢者)、メンバーの固定化が見られる。【2件】
- ・ 自治会でパークゴルフ大会をしても2割程度しか参加がない。
- ・ 自治会でミニバレー大会などをやっても、高齢者は怪我を心配して参加してくれない。若い人も参加してくれない。マージャン大会などもするが、出る人は限られていて、参加者をどうやって増やすかが課題である。
- ・ 高齢者への声掛けやお茶会をしているが、参加者が少なくなっている。
- ・ 温根湯温泉まつりでは、神輿の担ぎ手が少なくなっており、北見自治区からも参加してもらっている。
- ・ 最近、引きこもりの高齢者が増えているが、防犯のために声かけ訪問を続けていると少しずつ心が開き、自治会行事にも参加するようになった。継続は力なり。
- ・ 夏祭りの観客が減ってきたので、盆踊りの太鼓を子どもに叩いてもらうなど、子ども中心にやるようにしたら、子どもを応援する大人も見に来るようになった。
- ・ 自治会の総会には6割程度の参加があり、自治会活動に対する住民の関心が深い。
- ・ 自治会で若い奥さんを集めて、ゴミの分別を徹底的に行う運動をした。自治会を動かす手段としてこのことは大きかった。

その他(10件)

- ・ 留辺蘂自治区は、高齢化が進んでいるため、お年寄りがお年寄りを助け合う時代となってきた。【5件】
- ・ 自治会の取り組みの中で課題は特にない。【2件】
- ・ 留辺蘂の自治会加入率は、ほぼ100%。旧北見市と旧3町には自治会活動に違いがある。新市として一本にならなければならないが、長い時間がかかると思う。
- ・ 地域会館を3つの自治会でまとまって建設した。高齢者クラブや子ども会も利用でき、

災害時には炊き出しもできるように作った。地域ではこの会館が核となっている。

- ・ 住民にできないことを行政が補完するのではなく、もう一步進んで、行政ができないことを自治会が補完していく、相互補完ということも言っていくべきだと思う。

新しい住民自治組織

「新しい住民自治組織」全般に関するご意見（12件）

- ・ 温根湯地区は、北見自治区と違い隣近所のつながりがある。各地区の実情に合わせて進めた方が良いと思う。全市一斉とはならないと思う。【2件】
- ・ 構想は素晴らしいと思うが、留辺蘂の人口が減っていくのは明らか。小さな隣近所のつながりが大事で、大きな組織にしても良いことはない。【2件】
- ・ 自治会連合会のような階層的な組織なら理解できるが、隣近所の助け合いをしていくのは自治会だと思う。【2件】
- ・ この組織でやろうとしていることは、自治会連合会がやるべきことではないのか。
- ・ 自分たちに火の粉がかぶらないと、他の地区のことまで考えられないと思う。
- ・ 「新しい住民自治組織」で、困りごとが出たときに行政は相談に乗ってくれるのか。
- ・ 若者も活動に参加してもらおうという狙いだと思うが、若い人自体が少ない。北見自治区から若者がボランティアで来てくれるのか。それなら分かるが無理だと思う。
- ・ 留辺蘂では、温根湯地区と留辺蘂地区の自治会が話し合う場があり、すでに「新しい住民自治組織」ができていると思う。
- ・ 「新しい住民自治組織」が良いということは分かるが、自分達のやることも増えるので簡単にやりますとはならない。

福祉関係

地域福祉活動に関するご意見（24件）

- ・ 悩みがあっても家に引きこもる高齢者が多い。ふれあい会食、茶話会、話し相手ボランティアなど、高齢者を外に出すような福祉活動を地域主体で展開すべきだと思う。それが訪問販売の被害防止にもつながる。【2件】
- ・ 災害で想定されるのは大雪ぐらいだが、今回配布された「個人情報保護の手引き」を参考に、連絡網、要支援者台帳・マップづくりに今後取り組みたい。【2件】
- ・ 民生委員の担当地域では、独居高齢者が少なく、近くに親類がいるので助かっている。また、地域でも隣近所で目を配ることができている。【2件】
- ・ 災害時の対応を考えると、普段交流のない独居高齢者とどのように交流したら良いか悩んでいる。

- ・ 民生委員運営で「ふれあい会食」を実施。安否確認を兼ねた出欠確認をすることで、独居高齢者とのつながりができている。非常に評判が良く、続けていきたい。
- ・ 民生委員として、独居高齢者への声掛けや話し相手をしている。担当地域に独居高齢者が多く、各地区3名の福祉委員にも見てもらっている。
- ・ 留辺蘂では、平成13年度より小地域ネットワーク事業を展開。自治会、民生委員、福祉委員の連携の下、要支援者の把握ができており、顔が見える環境にある。
- ・ 小地域ネットワーク事業による要支援者への実際の支援活動では、当事者と支援者側の意識の隔たりなど課題もあり、取り組みが進んでいない(しづらい)のが現状。
- ・ 小地域ネットワーク事業を3年前から取り組んでいるが、食事会、健康講座などを企画、実践することで上手く展開できている。
- ・ 小地域ネットワーク事業を実行、充実させていけば、地域福祉計画の「ふれあい福祉推進区」の考え方は留辺蘂自治区では不要だと思う。
- ・ 要支援者の把握・支援も、小地域ネットワークの関係者だけに頼るのではなく、住民皆で情報共有し、動ける仕組みが必要だと思う。
- ・ 悪徳業者は訪問の際、玄関先に共通のサインを残していくケースが多い。こうした情報を市や社協から頻繁に小地域ネットワーク事業の関係者に流して、日頃の見守り活動の中で発見、対処できるようになれば、被害を減らせられるはず。
- ・ 最近、温根湯温泉と瑞穂地区を中心に悪徳商法、訪問販売に引っかかるケースが増えている。このため、社協では消費者協会と連携し、講習会を催し対策を講じている。
- ・ 自治会として、独居高齢者などの対応に協力はするが、個人情報等を含めて情報を流して欲しい。
- ・ 自治会で、独居高齢者の見回りについて責任者を決めている。
- ・ 高齢者でも農家をしている人はトラクターを持っており、近所に迷惑を掛けたくないと自分で除雪をするので心配。
- ・ 向こう三軒両隣の関係強化し、居宅介護(ホームヘルプ)できるような地域の福祉力をつけていきたい。そのために市では、介護講習会を開催するなど取り組みやきっかけづくりを仕掛けて欲しい。
- ・ 福祉=社協のイメージが強いが、今より小範囲の自治組織・活動を充実させ、連携を深められれば、重層的なネットワークとなり、地域福祉がより継続されると思う。現在、社協の負担が重過ぎると思う。
- ・ 民生児童委員と社協の福祉委員と連携しており、自治会は班長が福祉委員の補助的なお手伝いをしている。
- ・ 大和地区では、ノーマライゼーション推進エリアの指定を受け、やよい苑入所者を招待し、運動会や学芸会など学校行事に取り組んできたが、大和小の廃校が決まれば今後の継続は難しく、困った。
- ・ 自治会で回覧板の回覧はいらないと言う人もいるが、回覧することで高齢者の安否確

認につながる。

福祉サービスに関するご意見(15件)

- ・生活困窮者や高齢者が一層増えるなか、民生委員だけではカバーできない。包括支援センターのような専門機関(人材)が身近な地域にないと、高齢化社会を乗り切るとは厳しいと思う。【3件】
- ・先日、地域にある保育所の廃止問題が報道されたが、地域にはまだ話しが下りてきていない。住民合意が必要だと思うが、何の説明もないのは遺憾。【2件】
- ・道路、公共施設などでバリアフリーが進んでいないため、小中学校など近所で行われる行事、イベントに参加できない高齢者が多い。
- ・介護保険制度をはじめ受けられる在宅福祉サービスを知らない高齢者が多い。
- ・幼少期から障がい者や認知症の人と交流、対話させることで福祉意識(見る目と接し方も)が養われ、ノーマライズされたまちづくりが進むと思う。
- ・合併前から地域での自立支援のサービスが少なく、在宅生活可能な人も施設入所するケースが多いと感じている。在宅福祉の意識が薄い地区だと思う。
- ・大人ではなく子どもを中心とした福祉施策に転換して欲しい。(もっと金をかけて)
- ・地域福祉計画の基本的な考え方は理解できるが、役割分担の中で行政でしか担えない事項があるので、福祉施設やサービスをはじめ、社会保障の基盤整備はしっかりやってもらいたい。
- ・認知症高齢者を介護する家族の精神的疲労・介護疲れを癒すための福祉サービスがあれば良いのだが。
- ・豊金地区に認知症対象のデイサービス、ショートステイを展開するサービス事業所が新設されたが、こうした小規模多機能型施設を増やす必要があると思う。
- ・他の自治区と比べ、地域の福祉サービス事業所の数や提供されるサービスの種類が少ない(遅れている)ので、早く平準化を図るよう声を大にして訴えていくべき。
- ・年金生活の高齢者で、支払いが困難なため医療を受けられない人が少しずつ増えている。こうした制度の狭間におり、公的支援に結びつかない人達をどう発見し、支援していくのか今後の大問題だと実感している。

災害・防災関係

緊急時における情報提供について(5件)

- ・ 災害時の情報伝達については、留辺蘂自治区では自治会で連絡網が確立されているので、自治会へ伝えることが一番良い方法だと思う。【2件】
- ・ 断水時には、情報が色々入ってきて、どれが正しい情報が分からなかった。
- ・ 自分の地域の避難所がどこか、避難した後の対応や避難所の備蓄品などについて地域に周知していくことが必要。
- ・ 守秘義務から市や民生委員が持つ要支援者の情報を自治会に提供できないことは、理解できるが、平時から情報共有を図っておかないと、災害など緊急時には対応できないのではないかと。

避難所・避難訓練について(7件)

- ・ 災害時には停電が予想され、冬期間は暖が取れない状況が想定される。避難所に非常用電源を設置することを検討してはどうか。【3件】
- ・ 市としてもある程度、非常発電機の備蓄の確保及び大型非常発電機のレンタルについて検討していただきたい。
- ・ 自治会単位の避難所が必要。
- ・ 災害訓練を行いたいが、お金がない。
- ・ この地区では防災マップも出来ている。

地域における活動、自主防災組織について(21件)

- ・ 地震や大雪が切実な問題との認識があまりなく、独居高齢者が増えている中、火災が一番心配。高齢者に火災予防の普及をしていくことも必要。【5件】
- ・ 災害時に独居高齢者をどのように支援していくかが問題。少子高齢化の中、若者は働いているか、消防団に召集され、支援するのも高齢者。個人個人が解決の道を考えていかなければならないと思う。【3件】
- ・ 北見地方では、大きな災害が少ないため、自分は災害にあわないという安易な考えがある。この地区は、洪水と土砂崩れには不安がないので、火災と大雪の備えを考えれば良いと思っている。【3件】
- ・ 佐呂間町の竜巻災害など予想もしない災害が近くで発生しており、防災のためにはきちんとした組織づくりをしていくことが必要だと感じている。【2件】
- ・ 自治会単位で自主防災組織が必要。
- ・ 私の住んでいる地域には役所の職員が多い。災害のときは災害本部に張り付けになる

ので、残っている職員の家族もまた被災者になってしまう。

- ・ 自治会の各班を細かく分けて、そこにリーダーを置き、そのリーダーに6～7人の人を把握してもらい、災害時は、そのリーダーが中心となって行動するような体制が必要では。
- ・ 災害が起きた時、経験がないのでどうすれば良いのか分からない。基礎的なことを学べる機会が欲しい。
- ・ 災害時に自治会を生かすには、班長を含めて日頃から動いていることが大事。そういったことを啓蒙していくことが必要。
- ・ 防災とは「何ぞや」という啓蒙も必要ではないか。
- ・ 防災意識を高めていくのは難しい。
- ・ 災害時に備えて、自治会で灯油ストーブ等の備蓄を検討中。

行政の体制について（7件）

- ・ 災害時に本庁の対策本部と自治区の対策本部、避難所間の連絡体制がうまくいくか心配。
- ・ 電気・水・ガスなどのライフラインの確保をきちんとしてくれないと困る。
- ・ 災害時の高齢者対策をきちんと考えて欲しい。
- ・ 将来（2030年）を見据えた防災対策を考える必要がある。
- ・ 災害時の備蓄については、行政側で対応してもらいたい。
- ・ 自然災害には地球温暖化などの影響もあるのでは。環境教育も必要だと感じている。
- ・ 防災計画など、全市的なものではなく、自治区単位での計画作成をお願いしたい。

その他

その他のご意見（4件）

- ・ 今日の懇談会には大勢の人に参加してもらうことが大事だと思う。問い合わせ先等も最寄りの総合支所や支所・出張所などを窓口にするべきではないか。
- ・ 若い人が住んで働けるような場を見つけていかないと、この地域は衰退してしまう。
- ・ 滝ノ湯にあった「静楽園（養護老人ホーム）」が、留辺薬市街地に移設されてから、大和地区は過疎化に拍車がかかり、さらにイトムカ野村興産の従業員も北見からの通勤者が多いため、過疎化は止まらない。新たな産業（就労の場）誘致といっても・・・。
- ・ 常呂産業振興公社の土壌改良剤が、粉末状のため機械から落ちにくい。とても良いものだが、農家も多忙で手間をかけられないので、コストが多少高くなってもペレット状にして欲しい。